2023年（令和5年）
3月10日
（金曜日）

THE KENSETSU MIRAI TSUSIN

建設未来通信

茨城全県版
発行所：茨城県水戸市笠原町1523-3
桂ビル2階
TEL：029-291-8855 FAX：029-291-8854
https://www.kensetsumirai.co.jp
新聞購読料 月額5,940円（税込）
電子版購読料 月額4,400円（税込）

人と環境の未来を創造する
大昭建設株式会社
代表取締役 細谷 武史
本 社／〒301-0822 茨城県龍ケ崎市1686番地
TEL 0297-64-1511 FAX 0297-64-1516
http//www.daisho-c.co.jp

いばらきの公共事業
～歴史をたどり、後世に残す～
県水戸土木事務所編⑤

石川川浚渫で冠水解消
渡邊 一夫 氏 × 大島 恭司 氏
元県土木部長（当時・県水戸土木事務所長）
元県土木部総括技監（当時・県水戸土木次長兼事業調整課長）

浚渫土を堤防に積上げ
短期間で大きな効果発揮

石川川は水戸市街地を源流として涸沼川に合流する一級河川です。延長約6㎞の下流域には広大な水田が広がっています。この水田は江戸時代、偕楽園が造成された頃の新田開発によるものと聞いております。今回お話するのは、地元の協力と職員の知見を生かし、短期間の浚渫工事で大きな効果を発揮した時のことです。

石川川下流域は大雨のたび冠水が発生しておりました。冠水が起きる都度、道路も通行止めをせざるを得ませんでした。この状況を解消するため、県では河口付近の約1㎞区間の改修に取り掛かりました。

ちょうどこの区間は近接して県道が走っており、県道をバイパスしてこの道路用地も利用しながら改修することが計画されました。

私も道路建設課でこの事業に係わっており、急ピッチでバイパス工事が進められました。

私が水戸土木事務所の所長になって間もなく、このバイパスの竣工式が行われ、やれやれと思っておりました。

そのころ、この石川川流域の土地改良区の幹部の皆さんが所長室に要望に来られました。「冠水がひどい。早く改修を進めてほしい」というお話でした。

そう簡単に改修を終わらせることはできませんが、どうにかならないかと考えました。

現地を何度も何度も見に行きました。改修を実施している区間は別にして、その上流約1㎞は土砂がかなり堆積して葦に覆われていました。所内で検討したところ、「急いでこの1㎞区間の浚渫をやってみよう」となりました。

早速改良区の皆さんにこの話をし「急いで浚渫をやってみます。この浚渫土を水田に入れさせてもらえませんか」と頼みました。

すると「所長さん、水田に入れるよりとりあえず堤防にあげておいて水が抜けたら整形すれば良いでしょう」という話を受け、そのとおり実施してみました。

結果は大成功。工事は短期間で終わり、河床は下がり流速もはやまった気がしました。堤防も立派になり、魚が泳いでいるのが分かるようになりました。

冠水も減り、地元の皆さんに喜んでいただけ本当に嬉しかったことが思い出されます。

河川断面を拡げ結果良好

水戸市を流れる一級河川石川は水戸市元吉田を源として涸沼川に流入する延長約7・1㎞、流域面積16・6㎢の小河川です。

私は平成15年から2年間水戸土木事務所に在籍しておりましたが、当時は時間雨量20㎜程度の雨が降ると、県道下入野・水戸線の入野橋から下流はヘドロや土砂で埋まっていたため、たびたび氾濫して通行止めになっておりました。

そこで閃いたのは、境土木事務所の河川係長時代の出来事でした。当時、一級河川向堀川上流は未改修のままで、一度雷雨があると国道125号はもとより、古河駅前広場までも冠水するほどの問題河川でした。

その際に行った工事が、計画断面は度外視をして現況の河川をただ単に掘削し、土砂は周りの田んぼに置かせてもらい、河川断面を拡げたことでした。結果は非常に良好で、雷雨での冠水はなくなりました。

「石川川でもこの方法が使える」と思い、早速地元の土地改良区に話をして協力を得て、入野橋から下流約1100mの掘削を行い、掘削した土砂はそのまま堤防に積み上げて、河川流下断面を従来の3倍程度に広げました。

そうすると、ちょっとした雨では県道の冠水や田んぼへ水があふれることもなくなりました。

また、川底にあったごみやヘドロもなくなったため、川底には砂利が現れました。なお、工事費も数百万円で済んだと記憶しています。

その後、うれしいサプライズがありました。2～3週間が過ぎた頃でしょうか。突然土地改良区の理事長さんたちが水戸土木事務所の所長室を訪ねて下さいました。

石川川が洪水もなくなり、非常にきれいになったということで、感謝状を持参してくださったのです。今までの経験で土地改良区から感謝状を受ける経験がなかったので非常に思い出深いことでした。

―◇―◇―

大島恭司（おおしま きょうじ）
1950年6月26日生まれの72歳。74年度に入庁。初配属は都市計画課。県水戸土木事務所次長兼事業調整課長などを経て2011年4月15日に県土木部総括技監で退職。

いばらきの公共事業を紐解く

佐貫3号線整備に1.7億
補正予算案 若柴町で地盤改良など
龍ケ崎市

龍ケ崎市は一般会計補正予算案（第9号）を3月議会に上程した。主な内容としては市道第1-380号線（佐貫3号線）整備に1億7000万円、市道第3-373号線外整備に1億1700万円、市道第I-2号線補修工事に9200万円を追加した。

一般会計全体では歳入歳出にそれぞれ7億4482万7000円を増額。当初からの総額を303億9307万1000円とする。

佐貫3号線は北竜台市街地方面や牛久市方面から佐貫駅へのアクセスを向上させるため、整備を進めている延長900mの都市計画道路。今補正案では若柴町地内で地盤改良工事などを行う工事費を配分。延長は約140m。

市道第3-373号線外整備事業はつくばの里工業団地に向かう周辺道路の整備を行う。今補正案では切削オーバーレイ工事や路上再生路盤工事などを行う。整備延長は約1100m。

市道第I-2号線は、県道の上に架かる歩道橋の脇のスロープを補修する。

また、個人番号カード臨時窓口改修工事に2120万8000円を充てた。本庁舎の旧地下食堂をマイナンバーカード臨時窓口として使用するため床の改修などを実施する。

補正案の主な内容は次のとおり。

【繰越明許費】
■道路改良事業＝770万円
■市道第1-45号線整備事業＝700万円
■市道第1-380号線（佐貫3号線）整備事業＝1億7777万7000円
■市道第3-309号線整備事業＝3330万円
■市道第3-373号線外整備事業＝1億1700万円
■橋梁維持補修事業＝1億4322万9000円
■小学校施設整備事業＝537万4000円
■中学校施設整備事業＝564万3000円

【総務費】
■個人番号カード臨時窓口改修工事＝2120万8000円

【土木費】
■市道第1-45号線整備事業＝700万円
□土地評価委託＝440万円
□補償調査委託＝260万円
■市道第1-380号線（佐貫3号線）整備工事＝1億7000万円
■市道第3-373号線外整備工事＝1億1700万円
■橋梁維持補修事業＝9600万円
□設計積算及び工事監理＝400万円
□市道第I-2号線補修工事＝9200万円
■旧小貝川護岸補修工事＝682万4000円
■野原町水路転落防止柵設置工事＝48万円

【教育費】
■新学校給食センター建設事業＝1億9753万5000円
□建築工事＝1億6348万6000円
□備品購入費＝3404万9000円

利活用事業者を公募
斗利出小跡の土地建物
土浦市

土浦市は斗利出小学校跡地（高岡1367-1ほか）の利活用事業者を公募型プロポーザルで募集する。土地は10年間の貸し付け、建物は売却とする。土地の最低貸付料は249万3600円（年額）、建物の最低売却価格は458万7000円。参加表明書の提出は4月7日まで受け付ける。

施設概要は、土地の面積が1万4017・04㎡。地目は学校用地、雑種地。校舎がRC造2階建て2008㎡、給食棟がRC造平屋建て86㎡。いずれも1989年築で耐震性を有しているが、経年による劣化は見られる。

そのほかプール専用付属室がW造平屋建て64㎡（80年築）、浄化槽機械室がRC造平屋建て13㎡（89年築）、屋外便所がW造平屋建て7㎡（75年築）。そのほか倉庫がある。

一方、耐震性を有しておらず解体又は耐震化を必要とするのが屋内運動場。規模はS造2階建て699㎡。80年築でIs値は0・35。

今後のスケジュールとしては、4月17日～28日まで提案書等の提出を受け付ける。5月上旬にプレゼンテーションを実施する。

策定する大洗・ひたち海浜シーサイドルートにおけるサイクルサポートステーションに登録していることも要件となる。

問い合わせは、商工観光課（電話029-267-5111、内線332）。

就職選択肢の一つに
仕事や採用試験など説明
―県土木部技術職説明会―

県は4日、4年ぶりとなる「土木部技術職 学生・保護者説明会」を県庁9階901会議室で開催した。

当日は、保護者を含め44人が参加。担当者が土木部の仕事や職員採用試験などについて説明した。

はじめに羽成英臣次長が「技術職員は、災害対応や生活基盤を支えるインフラの維持管理を適正に行う役割を担う非常に重要な存在。将来、就職する際の選択肢の1つとしていただければ」とあいさつ。

説明会では土木部の仕事や組織、災害時の役割、職員採用試験のスケジュールや心構えなどを担当者が説明。入庁4～8年目の技術職員による体験談も披露され、県職員のやりがいや職場の雰囲気、女性活躍などについての質疑応答も行われた。

参加者からは「具体的な話を聞くことができて、とても参考になった」「土木部の業務が非常にやりがいのある仕事だと感じた」などの感想が寄せられた。

2.4億で幹線道路整備
（麻）1-17号線改良舗装など
行方市

行方市は新年度予算案で幹線道路整備事業に2億4687万7000円の予算額を計上した。前年度に比べて7514万7000円の増額。市道（北）111号線外や市道（麻）1-17号線で道路改良舗装工事を実施。市道（玉）53号線で改良工事を行う。

この事業は国道や県道などと接続する幹線市道の整備を行い、交通の円滑化や地域間の連携強化を図るもの。事業費の内訳は工事に1億2600万円、道路調査設計委託料に2590万円、用地代に1390万円、移転補償等に3888万7000円。

整備予定路線は次のとおり。

■市道（麻）1-17号線（石神地区）＝道路改良舗装工事L180m
■市道（北）111号線外（繁昌地区）＝道路改良舗装工事L100m
■市道（北）210号線（小幡地区）＝路線測量業務L500m
■市道（玉）51号線（井上藤井地区）＝用地測量業務L2000m
■市道（玉）53号線（西蓮寺地区）＝改良工事L2000m

イオン内原で〝学ぼうさい〟
茨城県

県は東日本大震災から12年目となる今月11日に、防災啓発イベント「いばらき学ぼうさい」をイオンモール水戸内原で開催する。後発地震注意情報の説明や避難所体験などを行う。

本県沖では今後30年以内にマグニチュード7～7・5程度の地震が約80％の確率で発生すると言われており、県民の防災に関する意識向上を図るために防災啓発イベントを開催する。

なお、県庁2階県政広報コーナーでは、地震被害のパネルや地震で止まった時計などを展示する東日本大震災記録資料展示会を21日まで開催している。

秋ごろに工事着手
空調設備を更新
本部庁舎 西消防署 那珂市

那珂市は、消防本部庁舎および西消防署の空調設備改修工事を実施する。2023年度の当初予算案では、事業費として1199万6000円を計上した。

空調設備の一部が故障しているため、機器の入れ替えを行う。対象は、本部庁舎の室外機1台と室内機8台、西消防署の室外機と室内機各1台。炎天下での作業を避けるため、秋に工事を開始する予定。本部庁舎と西消防署の改修工事を、一括か分割で発注するかは現在検討中とのこと。

本部庁舎（菅谷651-1）は1980年築のRC造2階建て（一部平屋建て）、延べ床面積は1076㎡。西消防署（中里917-1）は90年築のRC造2階建て、延べ床面積943㎡。

サイクリストが訪れやすい町に
大洗町が補助金

大洗町は、サイクリストが町を訪れやすい環境を整備するため、サイクルラックの設置などに補助金を交付する。補助金額は3万円を限度とする。

補助対象は、町内に事業所があり、町内で事業を営む者。サイクルラック、自転車専用工具、自転車用空気入れが対象となる。県が

県土木部・幹部 きょうの動向
（○＝在庁 ●＝不在）

	午前	午後
【本課】		
部長	○	○
次長（事）	○	○
次長（技）	○	○
都市局長	○	○
港湾振興監	○	○
企画監	○	○
監理課長	○	○
用地課長	○	○
検査指導課長	○	○
道路建設課長	○	○
道路維持課長	○	○
河川課長	○	○
港湾課長	○	○
営繕課長	●	●
都市計画課長	○	○
都市整備課長	○	○
下水道課長	○	○
建築指導課長	○	○
住宅課長	○	○
【出先】		
水戸土木所長	○	○
常陸大宮土木所長	○	○
大子工務所長	○	○
潮来土木所長	○	●
土浦土木所長	○	○
筑西土木所長	○	○
常陸太田工事所長	●	●
高萩工事所長	○	○
鉾田工事所長	○	○
竜ケ崎工事所長	●	●
常総工事所長	○	○
境工事所長	○	○